

2027年3月期第1四半期 決算説明

2026年8月6日



東証プライム:5632

1Q実績サマリー

- ◆ 売上高は、北米や国内で売上数量増となったばね事業や、受注が好調な機器装置事業の伸長等により、増収。
- ◆ 営業利益は、戦略事業である海外鋼材事業や機器装置事業の収益寄与により、増益。
- ◆ 経常利益は、営業増益に加え、為替差益の計上により営業外損益が改善し、増益。
- ◆ 四半期純利益は、経常増益により、増益。

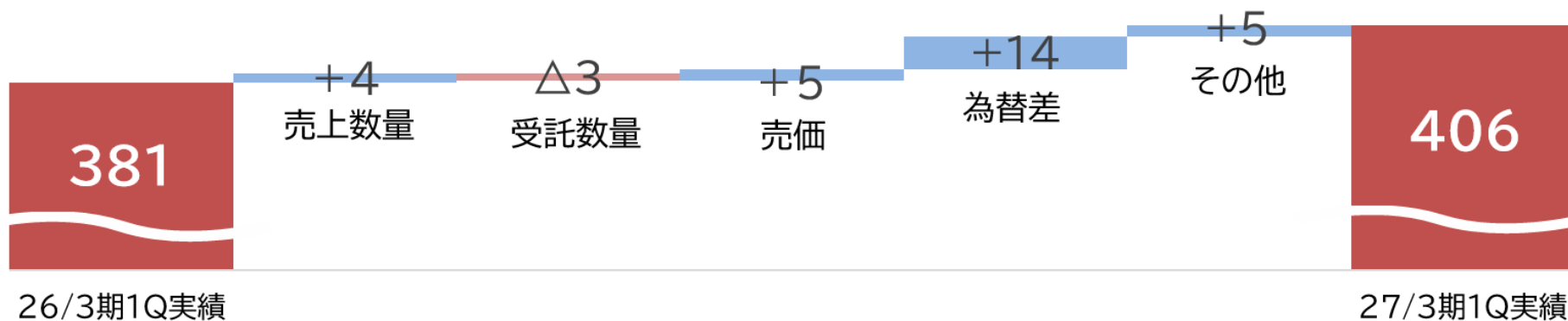
(億円)

	26/3期1Q 実績	27/3期1Q 実績	前年同期比
売上高	381	406	25
営業利益	8	14	6
経常利益	2	13	11
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△1	7	8

売上高・営業利益の変化要因

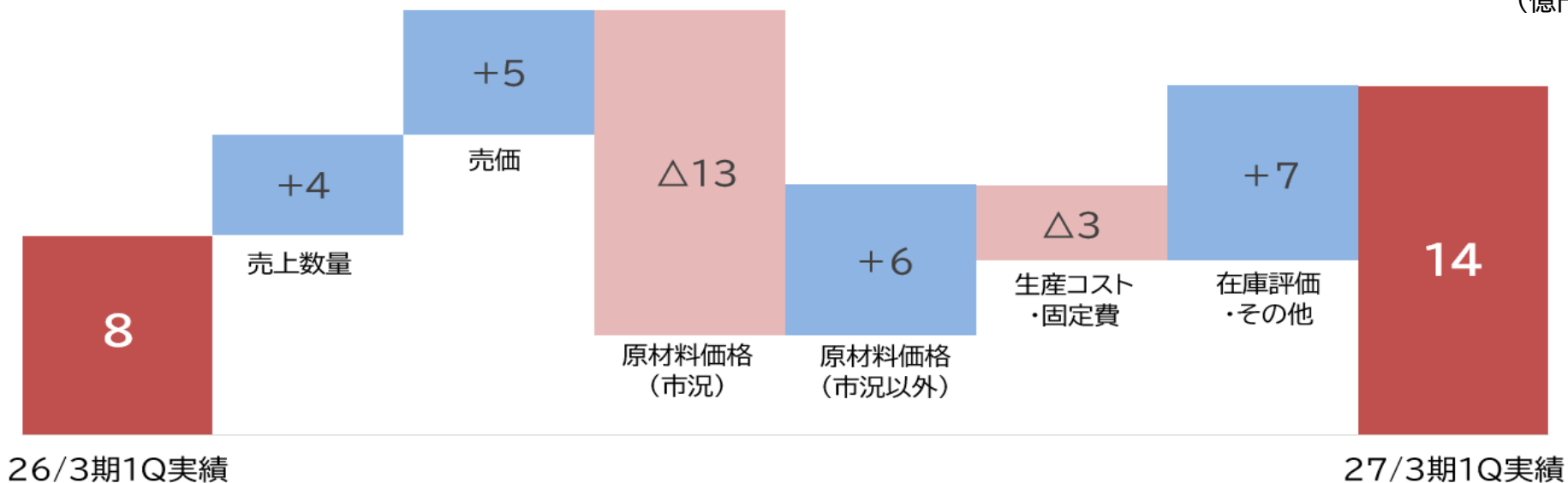
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



セグメント別業績実績

(億円)

			26/3期1Q 実績	27/3期1Q 実績	前年同期比
特鋼	殊鋼材	売上高	187	176	△11
		営業利益	0	1	1
ばね		売上高	177	194	17
		営業利益	8	8	0
素形材		売上高	20	26	6
		営業利益	1	2	1
機装	器置	売上高	18	28	10
		営業利益	△1	3	4
その他		売上高	10	10	0
		営業利益	1	0	△1
連結調整		売上高	△30	△29	1
		営業利益	0	0	0
合計		売上高	381	406	25
		営業利益	8	14	6

セグメント別業績実績(特殊鋼鋼材・ばね)

特殊鋼鋼材事業

(億円)

	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年 同期比
売上高	187	176	△11
営業利益	0	1	1

国内鋼材販売量(累計)※自社分

26/3期1Q	84千トン
27/3期1Q	74千トン

◆ 売上高(減収)

- ・【国内】(減収)
 - ✓ 前期に発生した高炉トラブル・火災事故影響が当1Qにも一部残り、売上数量減
- ・【海外(インドネシア)】(増収)
 - ✓ 売上数量増

◆ 営業利益(増益)

- ・【国内】(減益(損失))
 - ✓ 高炉トラブル・火災事故影響
- ・【海外(インドネシア)】(増益)
 - ✓ 数量増と売価・コスト改善

高炉トラブル・火災事故は、5月下旬から通常操業に戻っており、その影響が解消している

ばね事業

(億円)

	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年 同期比
売上高	177	194	17
営業利益	8	8	0

◆ 売上高(増収)

- ・北米子会社における売上数量増や為替影響
- ・国内での板ばねの売上数量増や自動車用ばねの新規量産品の立ち上がり

◆ 営業利益(横ばい)

- ・北米子会社における一時的な生産性悪化影響
- ・カナダの材料輸入規制や中東情勢に係るコスト増影響

セグメント別業績実績(素形材・機器装置)

素形材事業

(億円)

	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年 同期比
売上高	20	26	6
営業利益	1	2	1

◆ 売上高(増収)

- ・タイムラグが発生していた合金原材料価格上昇に伴う特殊合金粉末の売価転嫁が進捗
- ・精密鑄造品等の売上数量増

◆ 営業利益(増益)

- ・精密鑄造品の数量増と売価改善

機器装置事業

(億円)

	26/3期 1Q	27/3期 1Q	前年 同期比
売上高	18	28	10
営業利益	△1	3	4

◆ 売上高(増収)

- ・防護装備品、ガスタービン向け製品、海外化学プラント向け塔槽機器及び鍛圧機械等の売上増

◆ 営業利益(増益)

- ・売上増に加え、各種製品の生産性が向上

営業外損益・特別損益影響

- ◆ 営業外損益は、為替が円安に進行したことにより、為替差益が発生し良化。

為替レート				(億円)		
25/3期末	150円	26/3期1Q	145円	26/3期1Q 実績	27/3期1Q 実績	前年同期比
26/3期末	160円	27/3期1Q	162円			
営業利益				8	14	6
営業外損益				△6	△1	5
為替差損益				△4	2	6
支払利息				△3	△3	0
経常利益				2	13	11
特別損益				1	0	△1
投資有価証券売却益				1	—	△1
税金等調整前四半期純利益				3	13	10
税金費用等				△4	△3	1
非支配株主に帰属する四半期純利益				0	△2	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益				△1	7	8

業績予想の修正について

1Q実績

期初の想定を上回る水準で着地

- 国内の特殊鋼鋼材事業は、高炉トラブル影響が想定以上に早く解消した。
- 素形材事業の数量増および売価改善に加え、機器装置事業でも売上増と生産性改善で想定を上回った。

上期予想

上期の業績予想を上方修正

- ばね事業は、精密部品の顧客量産立上げ時の増産対応が一巡したことに加え、カナダの材料輸入規制等に伴うコスト増の影響を見込む。
- 一方で、高炉トラブル影響の早期解消に加え、素形材・機器装置事業は好調を維持する見込み。

通期予想

期初の予想を据え置き

- 中東情勢をはじめ不透明な事業環境が継続していることを踏まえ、通期業績予想は期初予想を据え置く。

	27/3 上期			27/3 通期予想 (修正無)	(参考) 26/3期	
	期初予想	修正予想	期初予想差		上期実績	通期実績
売 上 高	805	805	±0	1,660	799	1,546
営 業 利 益	20	28	+8	64	21	48
経 常 利 益	14	22	+8	51	14	40
親会社株主に 帰属する 当期純利益	7	12	+5	31	7	31

(億円)

【トピックス】三菱長崎機工、UACJ社向け大型リングローリングミルを受注

- ◆ 三菱長崎機工は、アルミ製品大手のUACJ社より、ロケットなどに使用される大型リング材の製造設備として、大型リングローリングミル(リング圧延機)および鍛造プレス一式を受注。
- ◆ 長年にわたり培ってきた**大型設備の加工技術とノウハウ**に加え、**顧客要求に応じて設計段階から最適化を行うエンジニアリング力**ならびに、それを支える**高い品質管理体制**を整備していることが評価された。
- ◆ 同社は、**航空・宇宙分野向け**品質マネジメントシステム規格であるJIS Q 9100の認証を取得しており、今後も**同分野での受注拡大を積極的に拡大**。

受注案件の概要

- ◆ 国内最大仕様の5m超級のリング材生産に対応するリングローリングミル(同規模を製造できるのは国内では三菱長崎機工のみ)
- ◆ UACJ社は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の公募テーマである「高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新」に採択された取り組みの一環として、本設備を導入予定。
- ◆ 2029年中の稼働開始に向け、**三菱長崎機工が設計・製造から据付・組立までを一貫して担う**。





＜将来見通しに関する注意事項＞

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。